第四講　総合演習問題

問1　次の波線部a～cの敬語の種類の組み合わせとして正しいものを、後の中から一つ選べ。

「暗くなりぬれば、まゐらぬなり。これ、かしこのなり、見たまへ」となむ言ふ。
「『生きて生けらぬ』と聞こえよ」と言はせて、……

（波線部：a まゐら　b たまへ　c 聞こえよ）

ア　a 尊敬　b 尊敬　c 謙譲
イ　a 謙譲　b 尊敬　c 謙譲
ウ　a 謙譲　b 尊敬　c 丁寧
エ　a 丁寧　b 謙譲　c 丁寧

問2　「しづ心なく思ひ奉りけるこそあさましけれ」の解釈として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　身のほどを知らず恋い焦がれたのは嘆かわしいことだ
イ　気持ちが静まらずお慕いしたのは驚きあきれたことだ
ウ　見境なく恋心をお伝えになったのはあさはかなことだ
エ　冷静な心を欠いたまま判断なさったのは情けないことだ
オ　理性を失い好意をお寄せ申し上げるのは恐ろしいことだ

問3 「風だにも思はぬかたに寄せざらばこの世のことはかの世にも見む」の解釈として、最適なものを次の中から選べ。

ア　あなたはまるで風のようにいつも思いがけない時にいらっしゃるものだから、私はいつも戸惑い、現世にありながら来世を生きているような心地がしていましたよ。

イ　風さえも思い通りに吹き寄せることはないのに、ましてや自分の人生は思いのままになることはなく、現世と同じように来世でもみじめな思いをするのでしょう。

ウ　せめて風だけでも、その力で私を思いもよらぬ彼岸へ吹き寄せてくれるのでなければ、現世と同じく来世でも夫に対するうらみや息子に対する心配でつらい思いをするでしょう。

エ　世間の風向きが思いも寄らぬ方向へ変わってしまうということさえなければ、私は現世と同じように来世でも夫や息子と幸せに暮らすことができるでしょう。

問4 「おのれも慎まば、右大将のために悪しうもこそあれ。」の解釈として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　私が身を慎むのは、右大将に具合の悪いことが起こってほしいと思うからだ。

イ　私が身を慎むことは、右大将のためにならないはずがない。

ウ　私も身を慎んだならば、右大将にとってよくないことになると大変だ。

エ　私も一緒に身を慎むと、右大将は気を悪くするに違いない。

オ　私が身を慎まないことに、右大将は機嫌を損ねるだろう。

問5　「らうたげに恋ひ聞こゆめりしを、選(え)り残し給へる、…」の傍線部の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　いじらしい様子でお慕い申し上げているようだったが
イ　いじらしげに恋い焦がれているらしいと聞いていたが
ウ　かわいらしげに慕う人の様子を聞いていたようだが
エ　かわいらしいことに恋しいと申し上げていたようだが
オ　かわいそうなことに恋しくお思い申し上げているようだったが

問6　「あきらめてしがな」の解釈として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　宮仕えを辞めてしまいたい
イ　真実をはっきりさせたい
ウ　思いを断ち切りたい
エ　胸の内を聞いてほしい
オ　私のことを忘れてほしい

問7「そこらの燕子うまざらむやは」の解釈として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

ア　周囲の燕が子を産むことがあろうか
イ　普通の燕が子を産むことがあろうか
ウ　普通の燕なら子を産まないことがあろうか
エ　多くの燕が子を産まないことがあろうか
オ　多くの燕が子を産むことはあろうか

問8「さらに、夜さり、この寮にまうで来」の解釈として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

ア　もう一度、夜になったら、この寮に参上せよ
イ　もう一度、明け方になったら、この寮に参上せよ
ウ　あとで、夜が明けたら、この寮に参上せよ
エ　あとで、夜になったら、この寮に参上するよ
オ　何度か、夜が更けたら、この寮に参上するよ

問９「いかに守るとも、それにさはらじ」の現代語として最も適当なものを、次の中から選べ。

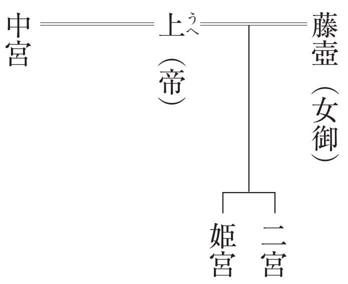
ア　どのように守るとしても、ふれさせることはあるまい。
イ　どんなに守ったとしても、ふれさせないつもりだ。
ウ　どんなに守ったとしても、妨げられることはないだろう。
エ　どうやって守って、妨げられないようにしたらよいだろうか。
オ　どのように守ったとしても、それにさわることはできない。

問10「いとつれづれに世の中のうらめしきことのみ思へば苦しきを、行ひは許されず、……」の傍線部の解釈として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　朝廷の仕事に励むこと
イ　故郷を捨て唐土まで行くこと
ウ　一旗揚げに東国まで行くこと
エ　出家して仏道修行をすること

問11 次の文章は、『恋路（こいじ）ゆかしき大将』の一節で、恋路大将が大風の吹いた翌朝に参内する場面である。これを読んで、後の問い答えよ。

晩方になるままに、おびたたしう吹きまさりたる風の紛れに、いと疾（と）う内裏（うち）へ参り給（たま）ひぬ。（中略）二宮（にのみや）、御簾（みす）を高くもたげさせ給へるに、十一、二ばかりにやと見ゆる御丈立（たけだ）ちにて、（中略）なほけしき異（こと）にて気高う、匂（にほ）ひも光も類（たぐひ）なき御さまは、姫宮にこそはおはしますめれ。（中略）世の常に思ひ寄るべき御年のほどならねど、ただまぼり奉らまほしきに、……



問 傍線部の解釈として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア 恋路大将は二宮・姫宮の兄妹を後見していらっしゃったが
イ 姫宮が雛屋を一途（いちず）に見つめ続けていらっしゃると
ウ 恋路大将は姫宮をしっかりお守り申し上げたが
エ 恋路大将は姫宮をひたすら見つめ申し上げたく思っていると
オ 二宮は妹の姫宮を何とかお守り申し上げたいと願っていたが

問12　次の文章は『源氏物語』（夕霧の巻）の一節である。三条殿（通称「雲居雁（くもいのかり）」）の夫である大将殿（通称「夕霧」）は、妻子を愛する実直な人物で知られていたが、別の女性（通称「落葉宮（おちばのみや）」）に心奪われ、その女性の意に反して、深い仲となってしまった。以下は、これまでにない夫の振る舞いに衝撃を受けた三条殿が、子どもたちのうち、姫君たちと幼い弟妹たちを連れて、実家へ帰る場面から始まる。これを読んで、後の問いに答えよ。

三条殿、「限りなめり」と、「『さしもやは』とこそ、かつは頼みつれ、『まめ人の心変はるは名残なくなむ』と聞きしは、まことなりけり」と、世を試みつる心地して、「<u>いかさまにしてこのなめげさを見じ</u>」と思（おぼ）しければ、（注）大殿へ「方違（かたたが）へむ」とて渡り給（たま）ひにけるを、…

（注）大殿――三条殿の父の邸宅。

問　傍線部の解釈として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　いかなる手段を用いても私はみじめな目に会うまい
イ　どうすれば私への失礼な態度を見ずにすむだろう
ウ　どうしてこの冷淡な振る舞いを見ていられよう
エ　だましてでも夫にひどい目を見せずにおくまい
オ　何としても夫の無礼なしうちを目にするまい

問13　次の傍線部の解釈として最も適当なものを、後の中から一つ選べ。

牛飼、牛をば門に結びて、扉の迫(はさま)の人通るべくもなきより入るとて、男を引きて、「汝もともに入れ」と言へば、男、「いかでかこの迫(はさま)よりは入(い)らむ」と言ふを、童、「ただ入れ」とて…

ア　こんな隙間からは入(はい)りたくない
イ　この隙間からなら入(はい)れるだろう
ウ　なんとかこの隙間から入(はい)りたい
エ　いつからこの隙間に入(はい)れるのか
オ　この隙間からは入(はい)れないだろう

問14　次の傍線部は誰への敬意をあらわす語か。最も適切なものを次の中から一つ選べ。

このごろの左大臣と聞こゆるは、関白殿の御弟にこそおはすれ。御身の才なども賢く、何ごとも兄の殿にはたちまさり給へれば、帝もいみじく重きものに思ひ聞こえ給へり。

ア　帝　　イ　先帝　　ウ　兄の殿
エ　左大臣　　オ　関白殿

問15　次の傍線線ａ「たてまつり」、ｂ「侍り」は、それぞれ誰に対して敬意を払う表現か。最も適切な人物を後の中から一つずつ選べ。

別当の参りたりければ、東宮も御直衣ａたてまつりなどして、御用意ありけるに、別当の、検非違使召して、「犯しの者は召し捕（と）りたりや」と問はれければ、「既に召してｂ侍り」といひければこそ、ともかくも申さでまかり出でられにけれ。

ア　検非違使の一役人　　イ　東宮　　ウ　女房　　エ　別当

ａ＝　　　　ｂ＝

問16　次の傍線部の文法的説明として最も適切なものを、後の中から一つ選べ。

承華殿といふところにて、帝、文作り遊びし給ふに、中納言召されて参り給へり。

ア　中納言に対する尊敬語　＋　帝に対する尊敬語
イ　中納言に対する尊敬語　＋　大臣や后に対する尊敬語
ウ　大臣や后に対する謙譲語　＋　帝に対する尊敬語
エ　帝に対する謙譲語　＋　中納言に対する丁寧語
オ　帝に対する謙譲語　＋　中納言に対する尊敬語

【第四講】

〔解答〕

問1　イ
問2　イ
問3　ウ
問4　ウ
問5　ア
問6　イ
問7　エ
問8　ア
問9　ウ
問10　エ
問11　エ
問12　オ
問13　オ
問14　エ
問15　a イ　b エ
問16　オ

付録

★センター試験で過去に出題された単語・慣用句

おぼえ（名詞）＝❶よい評判。　❷寵愛を受けること。
にほふ＝❶美しく染まる。　❷つややかに照り輝く。　❸栄える。　❹かおる。香気がただよう。
あきらむ＝❶物事を見きわめる。明らかにする。　❷気持ちを晴らす。
ゆかし＝❶心がひかれる。見たい。聞きたい。知りたい。　❷なつかしい。
具す＝❶備わる。　❷従う。一緒に行く。　❸夫婦となる。
いみじ＝❶（程度が）はなはだしい。　❷すばらしい。　❸ひどい。
なべてならず
なのめならず
おろかならず
おぼろけならず
＝並一通りでない。格別である。
にげなし＝つりあわない。ふさわしくない。似合わない。
あやし＝❶不思議だ。　❷身分が低い。　❸粗末だ。
念ず＝❶祈る。　❷我慢する。
あへて〜打消＝まったく〜ない。決して〜ない。
あぢきなし＝❶不当だ。　❷無益だ。　❸おもしろくない。
こころざし＝❶意向。　❷愛情。誠意。　❸贈り物。　❹供養。
になし＝二つとない。比べるものがない。すばらしい。

なめげなり＝失礼だ。無礼だ。
いざ、給へ＝さあ、いらっしゃい。　＊「98　国語Ⅰ・追試」でも出題。
心もとなし＝❶はっきりしない。　❷気がかりだ。不安だ。　❸待ち遠しい。
飽かず＝❶満足しなく。物足りない。名残惜しく。　❷飽きないで。
　＊「90　追試」でも「あかぬ＝名残惜しい」で出題。
かひなし＝❶効果がない。むだだ。　❷とるにたりない。たいしたことがない。
な～そ＝～するな。～してくれるな。
はしたなり＝中途半端だ。
思ひ屈す＝あれこれ考えて気がめいる。ふさぎこむ。
本意＝本来の意志、目的。
すかす＝❶だます。　❷おだてる。　❸慰めなだめる。
うたてし＝❶嘆かわしい。気にくわない。　❷情けない。気の毒だ。
たまさかなり＝❶偶然にあうさま。　❷たまたま。　❸もしも。
えんなり＝❶優美なさま。　❷色っぽいさま。
もとより＝❶前から。　❷もともと。　❸もちろん。
まぼる＝❶見つめる。　❷守る。　＊「まもる」と同義語。
まめだつ＝まじめにふるまう。本気になる。
まみ＝❶目つき。　❷目もと。
そこ＝❶そこ（場所）。　❷それ。　❸あなた（親しい目下の者や友人に対して用いる）。
おいらかなり＝❶おっとりしている。　❷あっさりしている。
びんなし＝❶都合が悪い。　❷よくない。
優なり＝❶優れている。　❷優雅だ。上品だ。

やさし＝❶つらい。 ❷恥ずかしい。 ❸優美である。 ❹けなげだ。

ねんごろなり＝❶親切なさま。熱心だ。丁寧だ。 ❷親しみ深いさま。 ❸正直なさま。

しほたる＝❶海水、雨、露などに濡れること。 ❷涙を流す。

とばかり＝ちょっとの間。

いとほし＝❶気の毒だ。 ❷いやだ。 ❸かわいい。

あたらし＝❶惜しい。 ❷新しい。

そばむ＝❶横向きになる。 ❷ひがむ。 ❸かたよる。

あから目＝❶よそ見。 ❷浮気。 ❸急に姿が見えなくなること。

岩木＝岩と木 ⬇ 感情のないもののたとえで用いる。

＊岩木にあらねば＝心を持たない岩や木と違って、感情が無いというわけではないので（「02 国語Ⅰ・追試」より）

こころすごし＝ものさびしい。人けがなく、気味が悪い。

かまへて＝❶（＋意志・願望）ぜひとも。 ❷（＋命令）必ず。 ❸（＋禁止）決して。 ＊かまへて＝**「強調」**の働き！

さるほどに＝❶そうこうしているうちに。まもなく。 ❷（話題転換の場面）さて。

落ちゐる＝心が静まる。落ち着く。

かきくらす＝❶雲が空一面を暗くする。 ❷心を暗くする。悲しみにくれる。

埋もれいたし＝❶気が晴れ晴れしない。 ❷内気だ。

ただならず＝❶ふつうでない。 ❷すぐれている。 ❸妊娠している。

たづき＝❶手段・方法。 ❷様子。

おこたる＝❶なまける。 ❷病気がよくなる。

所狭し（ところせ）＝❶場所が狭い。 ❷窮屈だ。気づまりだ。 ❸やっかいだ。

あまた＝❶数多く。 ❷非常に。

かづく（下二段）＝❶かぶせる。 ❷褒美として与える。

＊かづく（四段）＝❶かぶる。 ❷褒美としていただく。
心にくし＝❶奥ゆかしい。 ❷警戒すべきである。 ❸不審だ。
さらば＝それならば。それでは。
念ず＝❶祈る。 ❷我慢する。
言ふばかりなし＝何とも言いようがない。言い尽くせない。
V＋がてに＝Vできなくて
かへさ＝帰り道。帰る途中。
いらふ＝答える。
させる体言～打消＝たいした体言もない。
かよふ＝❶行き来する。 ❷よく知っている。 ❸男が女のもとに行く。 ❹よく似る。 ❺交差する。
つつまし＝❶遠慮される。 ❷恥ずかしい。
やすらふ＝❶ためらう。 ❷とどまる。 ❸休む。
さすがに＝そうはいってもやはり。
かしづく＝❶大切に育てる。 ❷大切に世話をする。
あさまし＝❶驚きあきれる。 ❷興ざめだ。 ❸話にならない。 ❹ひどい。
言ふかひなくなる＝死ぬ。
よそふ＝❶比べる。 ❷かこつける。関係づける。
いかがはせむ＝❶〈反語〉どうしようか、いや、どうしようもない。 ❷〈疑問〉どうしたらよいだろうか。
よも～じ＝まさか～ないだろう
V＋はつ＝すっかりVきる
～ながら＝❶～のに ❷～ながら ❸～のまま ❹全部。～中。
はしたなし＝❶中途半端だ。 ❷みっともない。 ❸そっけない。 ❹（雨・風などが）はげしい。

おほかた＝❶一般。おおよそのこと。　❷ふつうであるさま。
かいま見＝物のすきまからのぞき見ること。
恥づかし＝❶気がひける。　❷（こちらが恥ずかしくなるほど相手が）立派だ。
定めて＝必ず。きっと。
ついゐる＝❶かしこまって座る。　❷ちょっと腰を下ろす。
年ごろ＝長年。数年来。
おぼつかなし＝❶はっきりしない。　❷気がかりだ。　❸待ち遠しい。
ことわりなり＝当然である。もっともである。
市（いち）をなす＝人が大勢集まる。
埒（らち）あく＝きまりがつく。きまりをつける。
　＊埒もない＝筋が通らない。
なかなか＝❶なまじっか。　❷かえって。
心苦し＝❶つらい。　❷心配だ。　❸気の毒だ。
せちなり＝❶ひたすらである。　❷すばらしい。
かしこし＝❶恐ろしい。　❷恐れ多い。　❸利口である。　❹非常に。
なづむ＝❶行き悩む。　❷悩みわずらう。　❸こだわる。　❹ひたすら思いこがれる。
とし＝❶早い。　❷速い。　＊「とく」の形が多い。
かたみに＝お互いに。
あなかま＝しいっ、静かに。
やつす＝❶目立たないように姿を変える。　❷出家をして姿を変える。
おこたり申す＝謝罪する。
なづさふ＝❶水に浸る。　❷慣れ親しむ。

ほだし＝❶手足の自由を奪う道具。　❷自由を束縛するもの。⬇「出家の妨げ」＝親、恋人などを指す場合が多い。

めやすし＝見苦しくない。感じがよい。

をさをさ～打消＝ほとんど～ない。

なまめく＝❶若々しく美しい。　❷優美である。　❸もの静かで落ち着いている。　❹色っぽい。

よしなし＝❶理由がない。　❷手段・方法がない。　❸関係がない。　❹無益である。　❺よくない。

つきづきし＝似つかわしい。

わびし＝❶苦しい。　❷さびしい。　❸貧しい。　❹おもしろくない。

いとふ＝❶いやだと思う。　＊「世をいとふ」＝出家する。

うたてし＝❶嘆かわしい。　❷情けない。

やすからず＝不安だ。いらいらする。妬ましく思う。

なやまし＝（病気・心理的なことで）気分が悪い。

おどろく＝❶びっくりする。　❷はっと気づく。　❸目が覚める。

こころづくし＝いろいろと物思いすること。気をもむこと。

やがて＝❶そのまま。　❷すぐに。

おこなふ＝❶仏道修行をする。　❷とり行う。実行する。

やをら＝静かに。そっと。

われは顔＝自分こそはりっぱだという顔つき。自分だけがすぐれている顔つき。得意顔。自慢顔。